

高校生 春のチャレンジ・ラボ ～ひろしま街中で自由研究～

DAY
1

2025 年
3月20日 (木・祝)
10:00～17:00

DAY
2

3月21日 (金)
10:00～15:00

開催概要

高校生が叡啓大学とその周辺をフィールドに、アイデアの種を見つけてプロジェクトを作る「高校生春のチャレンジ・ラボ ～ひろしま街中で自由研究～」を開催しました。

広島や福岡、島根など、32名の高校生とメンターを担う大学生9名が参加。自分たちがお店を開業するとしたらどんなお店にするか、「**ハッピーイノベーションをおこす!**」をテーマに、2日間でアントレプレナーシップ入門講義やフィールドワークに取り組みました。チームで「アイデアを見つける・磨く・プロジェクトにまとめる」ことを体験してもらいました。

参加者には、身近なモノゴトからアイデアの種を見つけ、磨き、形にする「**ゼロからイチをつくる、何かを企てる**」ための考え方や手法、楽しさを学んでもらうことができました。

参加高校

五日市高校 (広島県)
隠岐島前高校 (島根県)
加計高校 芸北分校 (広島県)
賀茂高校 (広島県)
山陽女学園高等部 (広島県)
進徳女子高校 (広島県)
瀬戸内高校 (広島県)
崇徳高校 (広島県)
東福岡高校 (福岡県)
福山高校 (広島県)
広島桜が丘高校 (広島県)
広島工業大学高校 (広島県)
広島国際学院高校 (広島県)
広島女学院高校 (広島県)
安田女子高校 (広島県)



講師

合同会社ひとむすび
山田 芳雅



今回のワークでは、高校生も、メンターの大学生にも出会いと学びを体験してもらえたのかなと思っています! 終わった後の、参加者の満足そうな笑顔を見られて嬉しかったです。

大学生メンター



米田 歩未
(広島大学)



福代 悟史
(広島大学)



秋田 唯花
(叡啓大学)



岡田 涼花
(叡啓大学)



久保 允治
(叡啓大学)



岬 姫女
(叡啓大学)



川原 壮太
(叡啓大学)



團野 早希
(叡啓大学)



伊藤 悠祐
(叡啓大学)

DAY

1

Report 報告

1日目は、アントレプレナーシップ入門の講義とフィールドワークに取り組みました。高校生4~5名と大学生1名で8チームをつくり、午前は「イノベーションとは何か」、「物事を見る際の視点や考え方」などを学びました。

お昼からは、チームごとに広島市内でのフィールドワークを実施。それぞれのチームが街を歩きながら、虫の目・魚の目・鳥の目を意識しながら街をみて「チームで取り組みたいこと、街に足りないこと、気になること（アイデアの種）」を見つけて帰ってきました。



DAY

2

Report 報告

2日目は、チームで「アイデアを磨く・プロジェクトにまとめる」ことに取り組んでももらいました。どのチームも1日目の入門講義で学んだ「物事を見る際の視点や考え方」を意識しながら、「各自がアイデアを発散させ、チームでアイデアを収束させる」ことを何度も繰り返し、フィールドワークで見つけたアイデアの種をハッピーイノベーションにつながるお店のアイデアを考案・発表しました。

最後に、各チームのプロジェクトを発表してもらい、高校生のアイデアや発表に対して、審査員が講評・応援メッセージを送りました。



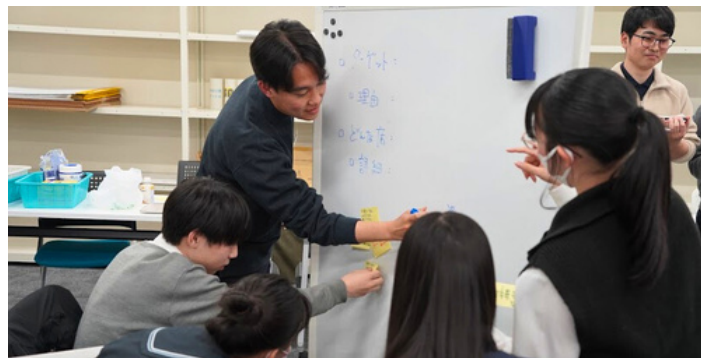
Voive 参加者の声

普段意識していない視点から物事を考えることで、新しい気づきや発見があり、おもしろかった。小さなことでも大きな発見につながると感じ、広い視野を持つことの大切さを実感した。(高校生)

他のグループの発表を聞いて、新たな視点や気づきを得ることができた。発表の仕方や自分の話し方の改善点も見つかり、今後に活かせそうだと感じた。(高校生)

何気ないアイデアを深掘りし、みんなで一つのプロジェクトを作るのが楽しかった。いろいろな案をつなげることで新しいアイデアが生まれ、協力することの大切さを改めて実感した。(高校生)

初めてこういう場に参加し、最初は緊張したが、自分の意見をしっかり伝えることができて良い経験になった。先生方の話も興味深く、探究活動に活かしたいと感じた。(高校生)



時間管理や進行に意識を向けすぎてしまい、余裕を持ったファシリテーションが難しかった。問いかけることの重要性を改めて感じた。また機会があったら嬉しい。(大学生メンター)

メンターとしての意識を保ちつつも、高校生との距離感に悩んだ。オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分けることで議論を深め、より良いサポートができたと思う。(大学生メンター)

高校生の意見を尊重しながら進めることを意識した。我慢する場面もありましたが、その結果、いろいろな意見が生まれ、学びにつながったと感じた。(大学生メンター)

チームの雰囲気づくりを意識した。メンバーそれぞれの役割を尊重しながら進行した。理想のメンター像には及ばなかったものの、高校生の意見を引き出し、議論が盛り上がっていったのが成果だと感じている。(大学生メンター)

チームA：14000歩

「RAPOS」

ゲートパークで遊ぶ親子向けの癒やし空間を提案！古着のリメイク子ども服や、地元の農業高校と連携したジュース販売が魅力的。パステルカラーの店内や子供用迷路など、親子が楽しめる工夫が満載。「体験型販売はリピートにつながりそう。」と高評価。



チームB：Another Type

「交流スペース」

本通りの空きテナントを活用し、地元の人も観光客も楽しめる交流スペースを提案。イベントスペースや学習スペース、アメニティ提供など、多世代が快適に過ごせる工夫が光る。「視点の組み合わせが面白い。」「アメニティへの配慮がすごい！」と審査員も感心。



チームC：春夏秋冬

「手紙カフェ」

手紙を使った国際交流カフェという斬新なアイデア！レトロな雰囲気の中で、焼き菓子やドリンクを楽しみながら、手紙で交流できる。多言語対応のチラシやSNSでの情報発信など、広報戦略も考えていた。



チームD：広島探検隊ぷらうD部隊

「MoMiGi」

シャレオを盛り上げるために、昼はフリースペース、夜は夜カフェのお店を提案！自然を取り入れた癒やし空間で、多世代が楽しめるお店になりそう。店舗の中央に大きな水槽を設置するなど、空間デザインの工夫も光っていた。



チームE：くいしんぼうず

「世界の枝豆専門店」

枝豆の魅力を発信する専門店というユニークなアイデア！枝豆を使った食品やコスメなど、新しい枝豆の可能性を感じました。紙芝居を使ったプレゼンテーションも、面白くて引き込まれた。



チームF：少年

「ツリースペース」

ゲートパーク周辺に、緑あふれる本とカフェの融合空間を提案。広島県産の木材を使った内装や、特産品を使ったメニューなど、広島愛が伝わってきました。バリアフリー設計や読み聞かせサービスなど、細やかな配慮も素晴らしかった。



チームG：5G

「Japan Sports and Information Center」

本通りに、街歩きの不安やストレスを解消する多機能施設を提案。外貨両替機や荷物置き場、ジムなど、観光客にも地元の人も嬉しい施設。3階建ての施設で、様々な体験ができるというアイデアも面白い。



チームH：いろいろBaby

「わくわくFamily Land」

広島駅構内シャレオに、子ども連れが安心して楽しめる無料休憩スペースを提案。絵本の貸し出しや遊具スペースなど、家族みんながハッピーになれる空間になりそう。ポイント制や学生の雇用など、運営方法も具体的に考えた。

